

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/05/05～2020/06/26)

1. 勉学の状況

5月上旬には帰国してオンライン授業を受け始めてから1ヶ月が経過しました。千葉大学の1タームが始まるのが5月ということもあり、それまでの約1ヶ月間はオストラバ大学での学習に集中することができました。一方で前回の報告書にも記載したように、帰国後のオンライン留学の方が結果的に負担が重くなってしまい、たった5つの授業を履修していただけないにも関わらず一週間の中で授業の代替課題をこなしていくことが困難になった時期もありました。例えばCzech for Foreigners 1というチェコ語を学ぶ授業では、週に取り組むテキストの分量こそ変わらないものの、レクチャーが無い分独学で学ばなければならず、週課題に取り組むのに長い時間を要していました。English for Tourismの中では、出身国が同じメンバーでグループプレゼンテーションをする予定だったのですが、日本から留学していたその他の学生が私以外帰国後の留学継続が大学に許可されていなかった為一人で担当することになりました。その他の授業の課題にも追われる中でプレゼンテーションスライドの提出期限に間に合わず、その科目の単位取得を断念することになりました。自分自身の中では出来る限りどの科目にも真剣に取り組んでいるつもりだったのですが、帰国後の継続の難しさと同時に悔しさを感じました。私の語学力がもう少し高く、それぞれの課題にかける時間を短縮させることが出来ればやり遂げられたのではないかと、といった不甲斐なさを感じましたが、これは次への課題として大事にとっておこうと思いました。

5月を過ぎるとどの科目も最終課題の時期に移り、毎週続いていたレクチャーから二、三週間後の提出期限のレポートやテストを控える段階になりました。English for Tourismを除いたその他4科目全て、何とか無事最終課題とテストを終えることが出来ました。しかしその時期は千葉大学の1タームも開始していた為、両立が困難を極めており、正直な話をするとう留学の最終課題の方を優先していました。それでも千葉大学で最終レポートやテストを受けるよりも作成や対策などの取り組みに時間を要し、使用する言語や課題形式などが違うだけで難易度が上がるように感じました。しかしそのような経験が出来たことは本当に貴重な上に、実際に精神面を含め成長を感じる事が出来ました。実際に自分自身が作成したレポートや週課題のレポートを振り返って見てみると、当時苦しいながらも決して手抜きなどせずに取り組んでいた様子が見て取れるので、やる気や勇気が湧いてきます。大事に1つのファイルにまとめており、時折見返しています。私の留学の軌跡として生涯にとっておこうと思っています。

2. 生活の状況

生活の状況は、新型コロナウイルスの影響でアルバイトも千葉大学に通うこともなく、基本的に帰国後はずっと一人暮らしの自宅にいて、数日に一度スーパーマーケットに食料や生活用品を買いに行くという生活を送っていました。しかし、チェコ滞在期間に多くの自然に囲まれている中で散歩が日課になっていたため、日本でも自粛期間に散歩するようになりました。これまでに以上に季節の移ろいや歩道に植えられている草木が目に入るようになり、留学生活で得た習慣が帰国後の生活にも影響する事を感じました。その他、留学中は自炊するのが当たり前になっていたため、帰国後もコロナ禍ということもあり自炊がメインになりました。散歩もそうなのですが、料理をする時間も他人との交流の少ない中長い時間パソコンと向かい合っている毎日の息抜きになっていました。

課題に追われる毎日の中で、講義室で授業を受けていたのが自宅で代替課題となるとこんなにも難易度が上がるものなのか、という事を千葉大学のオンライン授業の中でも感じました。その為、負担や難易度が増大するのは語学力の問題だけではなく、慣れない形式に一変する事や本来授業時間内で行う予定だった、言わば制限時間があったはずがそれがなくなる事により、個人個人の課題をこなすスキルによっては負担が増えてしまうという事なのでは無いかと思いました。その為、限られた時間の中でできる限りで仕事をこなしていく力を向上させねばならないという自分自身の課題を見出すことが出来ました。これはオンライン留学をした、もしくは千葉大学のオンライン授業を受けた、のどちらか一方だけでは気付けなかった学びであると思いました。両方のオンライン授業を受けた上で一貫した自分自身の課題を見出すことが出来たのだと思います。それにより、オストラバ大学で履修していた科目を全うしきれなかったことに関し語学力に負い目を感じすぎていた部分がありましたが、タスクとの向き合い方にも大きな反省点があったと気づくことが出来ました。

オンライン留学に切り替わった当初は、オンラインで継続して意味があるのだろうかと思っていました。現地で過ごした2ヶ月間だけを私の中で“留学”としていたら、ただただ楽しく過ぎていった時間という記憶になってしまうところだったと思います。その為、帰国後も一貫して半期の授業をやり遂げる、オンラインでの授業を受講し続けるという、当初予定していた期間持続した経験は確かに私の中で成長に繋がったのでは無いかと感じています。授業期間も後半になるにつれ忙しくなり、授業の代替課題に負担を感じながらも途中で諦めずに継続した時間とその経験は、今後新たな場所で戦っていく際の糧になると確信しています。また、今回の派遣留学を通して自分自身に対して感じた課題についても、今後の日本での生活の中で再挑戦し成長に繋げていきたいと思っています。楽しいだけじゃない留学を経験出来て光栄でした。派遣留学プログラムに参加できた事を感謝したいです。留学に際し様々な支援・ご指導を下さった先生方、留学生課の皆様、本当にありがとうございました。